

# 【宮城版】豚熱・アフリカ豚熱対策としての野生イノシシの捕獲等に関する防疫措置の手引き

《作成；宮城県 農政部 家畜防疫対策室（問合せ TEL 022-211-2854）》

## 本手引きについて

本県に生息する野生イノシシで、豚熱ウイルスに感染した個体が確認されました。豚熱ウイルスは感染イノシシの体内だけではなく、糞便や血液等にも排泄されるため、環境が汚染されている可能性があります。野生イノシシの捕獲等を実施する際に豚熱感染を拡大させないため、本手引きに防疫措置の情報を整理しました。実際の運用に当たっては、本手引きも参考の上、各地域の実情に応じつつ、必要な防疫措置の実施をお願いします。

## 防疫措置の基本的な考え方

「防疫措置」とは豚熱・アフリカ豚熱を広げない取組み

### ①ウイルスを持帰らない

- ・捕獲イノシシは現場処分が原則
- ・作業終了後は適時消毒を実施

### ②衣類・手袋等は汚れたら交換あるいは廃棄

- ・専用の道具と衣類を決める
- ・使い捨て用品（手袋等）を有効活用

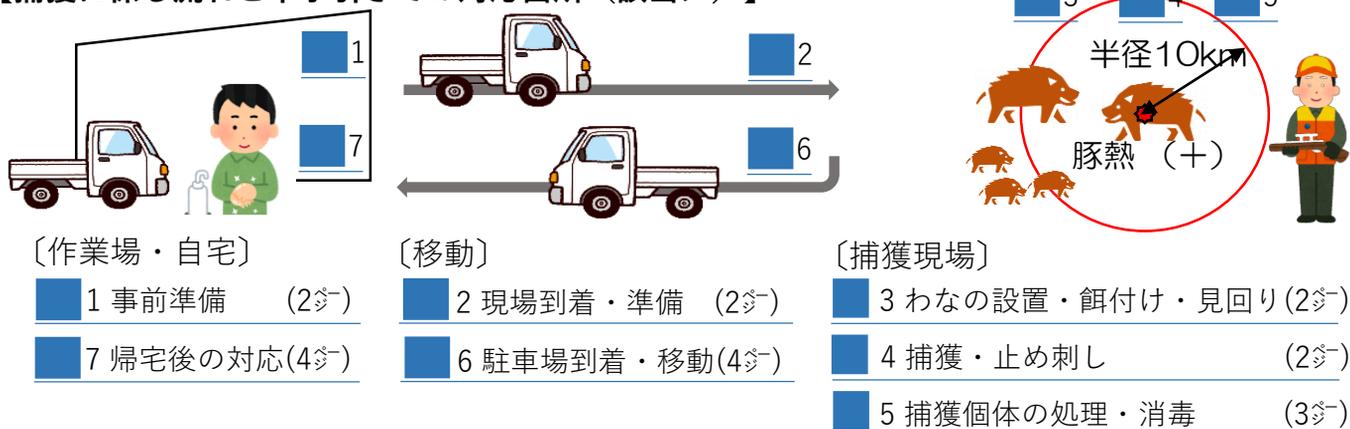
### ③汚染した可能性がある物は密封

- ・ブルーシート、袋、容器等を活用
- ・密封した物の外側にも消毒を実施

### ④適切な消毒による物品と車両の管理

- ・現場では噴霧消毒、自宅では浸置き消毒
- ・廃棄物にも消毒を実施

【捕獲に係る流れと本手引きでの対応箇所（該当◇）】



## 野生イノシシにおける豚熱・アフリカ豚熱対策のための区域区分

【感染確認区域】野生イノシシにおいて豚熱あるいはアフリカ豚熱検査で陽性が確認された地域で、該当イノシシが発見された地点から半径10kmの圏内  
(該当地域は県ホームページをご確認下さい<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/boueki/csf-wildboar.html>)

本区域においては、すべての個体が豚熱ウイルスに感染している可能性があるものとして、防疫措置を実施する。環境が汚染されている可能性があるため、衣服や猟具、車両、猟犬等によってもウイルスが拡散するリスクがあることから、捕獲等を実施する区域到着時から、見回りや捕獲、検体採材、処理、運搬、区域退出までの一連の行為において、本手引きを参考の上、防疫措置を確実に実施する。また、捕獲等を実施した後は、当面の間、養豚関連施設への立ち入りを自粛するなどの留意が必要。



### 【その他区域】上記以外の地域

豚熱あるいはアフリカ豚熱の陽性が10km圏内で確認されていないものの、感染確認区域からのウイルス拡散を警戒すべき地域。感染している可能性があることを想定した上で、感染確認区域に準じて必要な防疫措置を実施する。

## 1 事前準備

① 別紙「(参照資料) 持ち物・消毒薬 一覧」を参考に、必要な資材等を準備する

### ② 消毒薬の補充

- 1) 噴霧器に適切な濃度に希釈した消毒薬を補填
- 2) スプレー容器に消毒用アルコールを補填

### ③ 資材等の積み込み

- 1) 荷台に汚染防止用のシート等を敷き、整理して準備物を積み込む。



〔噴霧器〕

〔スプレー容器〕

## 2 現場到着・準備

### ① 手袋等の着用

- ・手袋は二重に装着する。内側のゴム手袋は洋服の袖口を覆うように着用する。

### ② 長靴の着用・消毒

- ・前回の汚れでウイルスを持ち込むことがないように、長靴を噴霧器で消毒する。

### ③ 作業に必要な資材の準備

- ・わな設置地点での作業に必要な器具、防護服、交換用の手袋、アルコール・スプレー、消毒薬の噴霧器を運搬用カゴ等に入れる。

## 3 わなの設置・餌付け・見回り

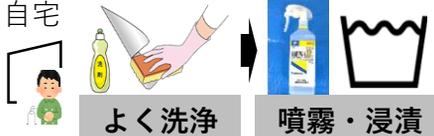
### ① わなの消毒

- ・わなを移設又は撤去する際は、逆性石鹼で消毒する。
- ・運搬用カゴ等の荷物はビニール袋等を敷き、その上に置く。

### ② 手袋の交換

- ・手袋は、破れたとき、直ちに交換する。
- ・移動する時、二重手袋の外側の手袋を交換する。

## 4 捕獲・止め刺し

消毒の要点	
●基本は「洗淨」して「消毒」 (汚れが消毒効果を低下させるため、汚れを落としてから、消毒しましょう。)	
捕獲現場	 <p>汚れ除去 (ブラシ) → 消毒噴霧 石灰散布</p>
自宅	 <p>よく洗淨 → 噴霧・浸漬</p>

イノシシの体表や周辺環境、作業従事者や器具等も汚染されるため、特に以下の点に注意する。

- 防護服等（雨合羽など捕獲・止め刺し時専用の衣類でも可）を適切に着用して作業する。
- 使用する器具等は、野生イノシシに関する捕獲作業専用にする。
- 使用した器具は、十分に消毒する。

### ① 使用する機材等の消毒

- ・わな本体は、土や汚れをブラシ等で落とす。移設又は撤去の際に消毒する。
- ・くくりわなは、消毒薬でしっとりするまで噴霧し、箱わなは、全体を噴霧器等で消毒薬を噴霧する。
- ・消毒したくくりワナ等の機材は、ビニール袋等に入れて持ち帰り、帰宅後、改めて消毒する。
- ・銃は、使用後にアルコールで湿らした紙タオルで拭く等の消毒を行う。
- ・猟犬は、体表及び足裏の泥汚れ等を十分に落とす。可能であれば、体表、特に足裏に消毒薬を噴霧し、消毒することが望ましい。
- ・止め刺し用の機材は、使用する毎に紙タオルで血液を拭き取った上で、アルコールを噴霧して消毒する。
- ・使用した刃物はビニール袋等に入れ、持ち帰った後は適切に処理する。

## 5 捕獲個体の処理・消毒（捕獲個体の処理は、各自治体の指定する処理方法に従う）

### ①捕獲個体の処理

#### 現場で埋却処分

- ・「感染確認区域」では現場での埋却処分を原則とする
- ・ 但し現場処分が困難な場合は次の方法で搬出すること

1) 野生動物が掘り返したり、風雨等により容易に捕獲物等が露出しないくらいの深さに穴を掘った上で右の手順で埋却する。



1) 穴に消石灰散布

2) 死体を入れ消石灰散布

3) 土で埋却する

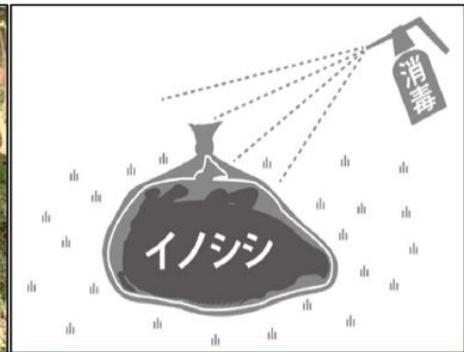
4) 表土に消石灰散布

#### 現場から処分場等へ搬出せざるを得ない場合

- 1) 消毒薬の噴霧により死体を消毒する。
- 2) 厚手のビニール袋やブルーシートで二重に包む。
- 3) 血液や糞便等が漏れ出さないようにする。
- 4) ビニール袋やブルーシートの表面を消毒し、運搬する。



ブルーシート等で二重に包む



イノシシを包んだビニール袋等の表面を消毒する

### ② 捕獲場所周辺の消毒（可能な場合、消毒液の散布に加えて、消石灰を散布）

- ・ 捕獲したイノシシを止め刺しした地点等イノシシがいた地点の半径1mの範囲を、地表面が湿るまで消毒薬を噴霧して消毒する。
- ・ イノシシの血液や糞尿等が付着した地点、くくりわなで捕獲されたイノシシが動き回った範囲、採材のためにイノシシを移動させた範囲も同様に消毒する。

### ③ 使用した器材の消毒

- ・ 使用した器材は汚れを落とした後にアルコール等を噴霧し、十分に消毒する。

### ④ 防護服等専用着の脱衣、手袋の交換等

- ・ 専用着を消毒薬で消毒した上で、ビニール袋等で密封し、袋自体にも消毒薬を噴霧する。
- ・ 外側の手袋を廃棄し新しい手袋を装着する。

### ⑤ 荷物置き場の撤収

- ・ 運搬カゴ等を置いている荷物を消毒し、持ち上げる。
- ・ 地面に敷いていたビニール袋の裏面（地面との接触面）を触れないように回収し、ゴミ袋に入れ、密封した袋自体にも消毒薬を噴霧する。

### ⑥ 回収現場からの退出

- ・ 靴底の泥や落ち葉等をブラシ等で取り除いてから、長靴と使用したブラシを消毒薬の噴霧器で消毒し、捕獲・回収現場を離れる。

## 6 駐車場到着・移動

### ① 手袋の消毒等（駐車場所到着時）

- ・運転手等最初に車体に触れる必要がある作業者は、外側手袋をアルコール・スプレーで消毒する。
- ・外側手袋を外し、内側手袋の上からアルコール・スプレーで消毒した後、車のドアを開ける。

### ② 捕獲個体と荷物の積み込み（捕獲個体を移動せざるをえない場合）

- ・車両の荷台等に、汚染防止用にブルーシート等を敷く。
- ・イノシシを包んだブルーシート、猟具、器具等は、全て改めて消毒してから積み込む。
- ・消毒した汚物入りのゴミ袋はさらにゴミ袋に入れて二重にし、再度周囲を消毒して積み込む。

### ③ 猟犬の消毒

- ・体表及び足裏の泥汚れ等を十分に落とす。可能であれば、体表、特に足裏に消毒薬を噴霧し、消毒することが望ましい。
- ・リード等の器具を消毒薬で消毒した上で、荷台に乗せる。

### ④ 車両の消毒

- ・タイヤとタイヤハウス内は、ブラシ等で土や汚れを落とす。
- ・車両で土や汚れが付いた部分を中心に、消毒薬の噴霧器で消毒する。

### ⑤ 全身、手袋、長靴の消毒、乗車

- ・長靴の泥、落ち葉等をブラシ等で取り除く。アルコール・スプレー等で全身を消毒し、作業靴等に履き替える。
- ・長靴と使用したブラシを消毒薬の噴霧器で消毒し、ビニール袋等に入れる。
- ・ゴム手袋を外し、アルコール・スプレーで手指を消毒する。
- ・作業靴等の裏とドアノブをアルコール・スプレーで消毒してから、乗車する。



## 7 帰宅後の対応

### ① わな等の器具の洗浄と消毒

- ・わな等の器具は帰宅後念入りに洗浄を行う。
- ・洗浄後、バケツやコンテナ等に消毒薬を入れ、猟具や器具、長靴を漬けて消毒する。

### ② 使い捨て資材の適切な処理

- ・使い捨て資材を入れて、ゴミ袋の口と外側を消毒する。
- ・各自治体のルールに従い、適切に処理する。

### ③ 猟犬の洗浄・消毒

- ・犬の全身を良く水洗いする。
- ・バケツ等に消毒薬を入れ、リード等の道具を漬けて消毒する。
- ・その後、十分に水洗いする。

※ 感染確認区域で使用した猟犬は、当面の間、その他区域での使用を自粛する。

### ④ 入浴・作業着の洗浄

- ・帰宅後は、入浴して体を十分に洗う。
- ・作業で着用した衣服等は毎回洗濯する。

### ⑤ 養豚関連施設への立ち入り自粛

- ・当面の間、養豚関連施設への立ち入りを自粛する。



〔長靴を消毒薬に浸漬している様子〕

### 廃棄物の消毒

廃棄物も一度消毒してから廃棄しましょう。

①汚物を消毒

②新しい袋に入れる

③袋を密閉

④袋を消毒



## 別紙「(参照資料) 持ち物・消毒薬 一覧」

### 1) 野生イノシシ捕獲作業時の防疫措置に係る持ち物一例 \*消毒薬は2)・3)を参照

品目	数量	備考
防護服(感染防護服)	人数分×見回り 地点数+予備	基本的に使い捨ての防護服 (雨合羽等での代用可)
薄手ゴム手袋(内側)	多めに用意	作業中は手袋を二重に装着
厚手ゴム手袋(外側)	多めに用意	外側手袋は、作業場所ごとに交換する
長靴	人数分	作業する時に履く
バケツまたはコンテナ	長靴が入る数	長靴の消毒・車内保管用
消毒薬の噴霧器	1個以上	噴霧器の容量は4L程度が望ましい
アルコール・スプレー	2本以上	1本は車内で、1本は作業時に使用
運搬用カゴ	1個以上	必要な器具の持ち運びに利用
ブラシ等	1本以上	靴底、わな、タイヤ等の泥落としに利用
ゴミ袋(大・小)・ビニール袋等	多めに用意	現場での荷物置場として利用
ティッシュ・紙タオル類	1箱以上	器材に付いた血液等のふき取りに利用
ブルーシート、厚口ビニール袋、 フレコンバック等	見回り地点数× 2+予備	イノシシを搬出する場合に使用 二重に包むため1か所で2枚必要
止め刺し用の道具、スコップ等	必要数	

### 2) 各消毒薬の用途と注意事項

消毒薬	用途	注意事項
逆性石鹸	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地での長靴、器具、車両、地面などの消毒(消毒薬噴霧器)</li> <li>移動中の長靴裏の消毒(バケツまたはコンテナ)</li> <li>帰宅後の長靴、器具などの消毒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明書を確認のうえ、適切な濃度に希釈して使用</li> <li>消毒の対象物がしっかり濡れるまで噴霧や浸漬する</li> </ul>
消毒用アルコール※	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指、防護服や作業着、器具などの消毒</li> <li>車内の消毒</li> </ul>	
消石灰	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面等の消毒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強アルカリで、約30分の作用時間が必要</li> <li>農地で散布する場合は、土地がアルカリ化し、作物に影響を与える可能性があることから、事前に土地所有者に了解を得る</li> </ul>

### 3) 主な逆性石けんの市販製剤と希釈濃度\*

製剤名	器具等の消毒(噴霧・清拭・浸漬)	猟犬の消毒(噴霧)
アストップ200	1,000~6,000倍	1,000~6,000倍
オスバン	50~200倍	(表示なし)
クリアキル100	500~1,000倍	500~2,000倍
クリンエール	500~1,000倍	500~2,000倍
サニスカット	50~400倍	500~2,000倍
パコマ	50~400倍	500~2,000倍
パンパックス100	500~2,000倍	500~2,000倍
ベストシール200	1,000~6,000倍	1,000~6,000倍
動物用ベタセプト	400~800倍	800~1,000倍
モルホナイド10	500~3,000倍	500~3,000倍
ロンテクト	500~3,000倍	500~3,000倍

《参考》1000倍希釈  
消毒薬5mLに対して  
水を加え5Lに調整

\*器具については原則として診療器具消毒時の用量、猟犬については畜体(豚)消毒時の用量を準用